

「新エネ大賞」経産大臣賞

日本地下水開発(山形)受賞

新エネルギー財団(東京)は26日、エネルギーの地産地消に向けた先進的な取り組みなどをたたえる2020年度の「新エネ大賞」を発表し、本県からは日本地下水開発(山形市、桂木宣均社長)が経済産業大臣賞に選ばれた。地下水を熱エネルギーとして建物の冷暖房に活用する技術が高く評価された。

同社は地下の帯水層に蓄えた冷熱と温熱を循環させ、冷暖房に利用するシステムを開発した。高効率なエネルギーの活用によりコストを低減するだけでなく、無散水消雪などと組み合わせた技術開発を進めており、積雪寒冷地域を中心に普及が期待されると評価された。

新エネルギーの位置付け

は幅広く、発電や熱利用をはじめ、革新的高度技術などが含まれる。同社の帯水層蓄熱に関する技術は、これまで省エネ推進の観点で各種表彰を受けてきた。今回の受賞に桂木聖彦専務は

「『メイドイン山形』としての技術が新エネルギーに認められることは画期的であり、非常にうれしい」と話した。

同大賞は1996年度に始まった。2020年度は55件の応募があり、経産大臣賞4件、資源エネルギー庁長官賞7件などを選出した。(稲村裕介)